

法人（事業所）理念	<p>「寄り添い、支える」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・私たちは、地域で生活する重症心身障がい児者および医療的ケア児者とその家族が「あたりまえに暮らす」ことができるよう支援します。</li> <li>・私たちは、障がい者にやさしい社会はすべての人にやさしい社会であると考え、誰もがその人なりに「幸せなところで生ききる」ことができる地域づくりを目指します。</li> <li>・私たちは、人がひとをケアするという事は、決して一方通行のものではなく相互交流であると考え、重度障がい者の「声にならない声を聴き取る」努力をします。</li> </ul>
-----------	--

支援方針	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 個別支援計画の作成と実行        児童一人ひとりの状況やニーズを把握し、個別の支援計画を作成します。計画に基づいて、適切な療育や支援を提供します。定期的に計画の見直しを行い、常に最適な支援を提供できるように努めます。</li> <li>2. 多職種連携        医師、看護師、理学療法士、保育士、介護士などの専門職が連携し、チームとして支援を行います。それぞれの専門性を活かし、多角的な視点から支援を提供します。</li> <li>3. 医療的ケアの充実        医療的ケアが必要な児童に対しては、安全かつ適切な医療的ケアを提供します。喀痰吸引、経管栄養、人工呼吸器管理など、専門的な医療的ケアに対応できる体制を整えます。</li> <li>4. 専門性の向上        職員の専門性向上のため、研修や勉強会を定期的に開催します。最新の知識や技術を習得し、質の高い支援を提供できるように努めます。</li> <li>5. 安全・安心な環境        安全管理を徹底し、事故防止に努めます。清潔で快適な環境を整え、子どもたちが安心して過ごせるように配慮します。</li> <li>6. 虐待防止        虐待防止に関する研修を実施し、職員の意識を高めます。虐待の早期発見・対応マニュアルを作成し、適切な対応ができる体制を整えます。</li> <li>7. 自己評価・改善        定期的に自己評価を行い、支援内容や体制の改善に努めます。保護者や関係機関からの意見を参考に、より質の高い支援を提供できるように努めます。</li> </ol>
------	---

営業時間	8 時 30 分から 17 時 30 分まで	送迎実施の有無	あり なし
------	------------------------	---------	-------

支 援 内 容

健康・生活	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医療的ケアの充実        呼吸管理：人工呼吸器の管理、吸引、酸素投与など、呼吸状態の安定を図ります。呼吸リハビリテーションにより、呼吸機能の維持・向上を目指します。        栄養管理：経管栄養、胃ろう管理、食事介助など、個々の嚥下機能に合わせた栄養管理を行います。栄養状態の評価と、必要に応じた栄養指導を行います。        排泄管理：導尿、洗腸、ストーマ管理など、排泄に関するケアを行います。排泄リズムの安定化と、皮膚トラブルの予防に努めます。        服薬管理：複数の薬剤管理、副作用の観察など、安全な服薬を支援します。定期的な服薬状況の確認と、必要に応じた医師との連携を行います。</li> <li>2. 日常生活の質の向上        食事：摂食・嚥下機能に合わせた食事の提供、食事介助を行います。食事環境の整備や、楽しい食事の雰囲気作りにも配慮します。        入浴：安全な入浴介助、清拭を行い、清潔保持とリラックス効果を高めます。個々の状態に合わせた入浴方法を検討します。        排泄：オムツ交換、トイレ介助など、快適な排泄ケアを行います。排泄に関する羞恥心に配慮し、プライバシーを尊重します。        清潔保持：着替え、口腔ケアなど、清潔な状態を保ちます。皮膚トラブルの予防や、感染症対策にも努めます。        移動：車椅子移乗など、安全な移動をサポートします。移動手段の確保や、移動に関する情報提供も行います。        睡眠：安全な睡眠環境の整備、睡眠リズムの調整を行います。睡眠に関する悩みや不安に対して、関係機関と連携して対応します。</li> </ol>
-------	--

運動・感覚	<p>個々の状態に合わせたリハビリテーション実施計画書を作成し、継続的に支援します。        重症心身障がい児の感覚は非常に敏感な場合や、逆に感じにくい場合があります。そのため、本人の反応をよく観察しながら、適切な刺激を提供します。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 姿勢ケア        ポジショニング：クッション等を用いて、体を支え、安定した姿勢を保ちます。仰向け、横向き、うつ伏せ、座位など、さまざまな姿勢を組み合わせます。        体位変換：定期的に体の向きを変え、同じ部位への圧迫を防ぎます。体位変換の頻度や方法は、個々の状態に合わせて調整します。</li> <li>2. 運動支援        筋緊張の調整：マッサージやストレッチ等により、筋緊張のアンバランスを整えます。        姿勢保持：うつ伏せ、座位や立位など、抗重力位での身体活動を行います。適切な姿勢保持のためのポジショニング、車椅子や座位保持装置、立位台の検討を行います。        関節可動域訓練：関節拘縮予防のための関節モビライゼーション、ストレッチ、関節運動を行います。必要に応じて、装具などを利用します。        呼吸機能訓練：呼吸リハビリ、脊柱胸郭モビライゼーション、呼吸介助、排痰補助などを行い、呼吸機能の安定を図ります。        身体活動：床上動作練習や歩行器を使用して歩行練習などの身体活動を行います。</li> <li>3. 感覚支援        視覚支援 光の調整：照明に配慮し、好みや反応に合わせて、光の色や明るさを調整します。        視覚刺激：ゆっくりと動くおもちゃや光るおもちゃなど、視覚的に興味を引くものを提供します。コントラストの強い絵本や写真を使用し、視覚認知を促します。        環境調整：視界を遮るものを減らし、視覚からの刺激に集中し見やすい環境を整えます。鏡を使用し、自己認識を促します。        聴覚支援 音の調整：騒音を避け、静かで落ち着いた環境を整えます。環境音を調整し、心地よい音環境を作ります。        聴覚刺激：心地よい音楽や自然の音（川のせせざりなど）を聴かせます。子どもの名前を呼んだり、絵本の読み聞かせをしたり、語りかけをします。        聴覚過敏への対応：イヤーマフなどを使用し、不快な音を遮断します。        触覚支援 触覚刺激：様々な素材（布、紙、梱包材、ビーズ、スライムなど）に触れる機会を提供します。マッサージやブラッシングを行い、心地よい触覚刺激を与えます。        しっかりと抱きしめて安心感を与えます。        触覚過敏への対応：触られることに慣れるよう、段階的に触覚刺激に慣らします。        味覚・嗅覚支援 味覚刺激：様々な味（甘味、酸味、塩味、苦味）の食品を試します。食品の温度や食感も考慮します。        嗅覚刺激：アロマオイルやハーブなど、心地よい香りを提供します。食品の匂いを嗅ぎ、食欲を促します。        味覚・嗅覚過敏への対応：刺激の少ない食品や香料を使用します。</li> <li>4. 固有受容覚・前庭感覚支援        固有受容覚刺激：抱っこやマッサージ、ブランケットで包むなど、体に圧力をかけることで安心感を与えます。        トランポリンやバランスボールなどを使用し、体全体の動きを促します。        前庭感覚刺激：ハンモックなどを使用し、揺れや回転運動を体験します。ゆっくりと抱っこでの心地よい揺れを経験します。</li> </ol>
-------	---

本人支援	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 発達段階の理解        重症心身障がい児の認知発達には個人差が大きく、定型発達とは異なる経過をたどることがあります。現在の発達段階を把握するために、必要な評価や行動観察を行います。        感覚、運動、コミュニケーションなど、認知機能に関連する領域の発達状況も評価します。</li> <li>2. 感覚刺激の提供        感覚は認知発達の基礎となるため、視覚、聴覚、触覚、味覚、嗅覚など様々な感覚刺激を提供し、外界との関わりを促します。        本人の好む刺激や、落ち着く刺激を見つけ、積極的に取り入れます。子どもの好みに合わせた感覚刺激を選び、心地よい体験を提供します。</li> <li>3. 遊びを通じた学習        遊びは認知機能の発達を促す重要な活動です。子どもの興味や関心に合わせた遊びを提供し、主体的な活動を促します。        遊びの中で、原因と結果の理解、問題解決能力、記憶力などを育みます。例：音の出るおもちゃ、光るおもちゃ、感触の違うおもちゃ、絵本の読み聞かせなど</li> <li>4. コミュニケーション支援        コミュニケーションは認知機能と密接に関連しています。本人の発するサインを丁寧に読み取り、応答的な関わりを心がけます。        子どものコミュニケーション手段（表情、身振り、音声、視線など）を理解し、適切な応答をします。        絵カードやシンボルなどを使用し、様々な手段を用いてコミュニケーションを支援します。コミュニケーションを通して、思考力、理解力、表現力を育みます。</li> <li>5. 環境調整        子どもの認知機能の発達を促すために、安全で刺激を受け入れやすい環境を整えます。子どもの興味や関心を引くような玩具や教材を配置します。        騒音や眩しさなど、認知機能に悪影響を与える要因を排除します。</li> </ol>
------	--

言語 コミュニケーション	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. コミュニケーション手段の理解        重症心身障がい児は、表情、身振り、視線、発声、体の動きなど、さまざまな手段で意思を伝えようとしていることを理解します。        小さな変化も見逃さず、注意深く観察します。</li> <li>2. コミュニケーション環境の整備        静かで落ち着いた環境を整え、子どもが安心してコミュニケーションに集中できるようにします。        子どもの視界に入りやすい位置に立ち、アイコンタクトを取りやすくします。子どもの反応に十分な時間をかけ、焦らずゆっくりとコミュニケーションを取ります。</li> <li>3. コミュニケーション手段の活用        表情：笑顔、しかめ面、驚いた顔など、子どもの表情の変化に注意を払います。子どもの好きな遊びや活動を通して、さまざまな表情を引き出します。        身振り：手を伸ばす、体を反らす、足をバタつかせるなど、子どもの体の動きに注目します。        子どもの動きに合わせて、ジェスチャーやサインを使ってコミュニケーションを取ります。        視線：子どもの視線の動きを追い、何に興味を持っているのかを把握します。子どもの視線が合うように、おもちゃや絵本などを提示します。        発声：子どもの出す声（うなり声、泣き声、笑い声など）に耳を傾け、意味を理解しようと努めます。子どもの発声に合わせて、言葉や音声を返します。        シンボルや絵カード：子どもの理解力に合わせて、シンボルや絵カードを使用します。選択肢を示す、要求を伝えるなど、さまざまな場面で活用します。        ICT機器：タブレット端末やコミュニケーション支援アプリなどを使用し、意思伝達を支援します。子どもの操作しやすいインターフェースを選び、個別に設定します。</li> <li>4. コミュニケーション支援のポイント        個別性：子どもの発達段階やコミュニケーション能力に合わせて、支援方法を調整します。        共感性：子どもの気持ちに寄り添い、共感的な態度で接します。        継続性：コミュニケーションは一朝一夕に成立するものではないため、根気強く継続的な支援を行います。        多職種連携：医師、看護師、理学療法士、保育士、介護士など、多職種が連携して支援を行います。        家族との連携：家族と密に連携し、一貫したコミュニケーション支援を行います。</li> </ol>
-----------------	--

本人支援	人間関係 社会性	<p>1. コミュニケーション支援        非言語的コミュニケーションの重視：表情、身振り、視線、触覚など、多様なコミュニケーション手段を活用し、相互理解を深めます。        本人の発する微細なサインを丁寧に観察し、応答的な関わりを心がけます。        コミュニケーションツールの活用：絵カード、シンボル、音声出力装置など、個々の能力に合わせたツールを導入し、意思伝達を支援します。        情報端末等を活用し、外部とのコミュニケーションを促進します。</p> <p>共同注意の促進：同じ物を見たり、音を聞いたりする体験を通して、他者との関わりを促します。遊びや活動の中で、自然な共同注意の機会を作ります。</p> <p>2. 社会的交流の促進        集団活動の導入：集団での遊びや活動を通して、他者との関わりを体験します。個々のペースに合わせた活動内容や時間設定を行います。        役割体験の機会の提供：遊びや活動の中で、役割分担や協力体験を促します。日常生活の中で、できる範囲で役割を持てるように支援します。</p> <p>3. 情緒の発達支援        情緒の理解と表出の支援：絵カードや写真などを用いて、様々な感情を理解する支援を行います。感情を表出できる安心な環境を提供し、受容的な関わりを心がけます。        自己肯定感の育成：小さな成功体験を積み重ね、自己肯定感を育みます。個々の良いところや頑張りを認め、言葉や態度で伝えます。        他者への共感性の育成：絵本や物語を通して、他者の気持ちを想像する機会を作ります。日常生活の中で、他者への思いやりや配慮を促します。</p>	
家族支援	<p>家族とのコミュニケーションを密にし、情報共有や連携を図ります。        家族の意向を尊重し、共に子どもの成長をサポートします。        家族に対する相談支援やレスパイトケア（一時的な休息）なども提供します。        本人や家族の心理的な負担軽減や、精神的な安定を図ります。</p>	移行支援	<p>1. 情報共有        移行先の保育園や学校などと情報を共有し、一貫性のある支援が可能になるよう連携体制を構築します。</p> <p>2. 移行期間中の支援        保護者と移行先と定期的に連絡・相談を行い、子どもの様子や課題などを共有し、対応します。</p> <p>3. 移行後の支援        移行後も事業所の職員が定期的に移行先を訪問し、子どもの様子を観察したり、移行先のスタッフにアドバイスを行うなど、継続的なサポートを提供します。</p>
地域支援・地域連携	<p>地域の医療/教育機関や福祉施設との連携を強化し、地域全体で子どもたちを支える体制を構築します。        地域資源を活用し、子どもたちの社会参加や地域交流を促進します。</p>	職員の質の向上	<p>職員の専門性向上のため、研修や勉強会を定期的に開催します。        知識や技術を習得し、質の高い支援を提供できるように努めます。</p>
主な行事等	<p>1. 春 お花見（桜の香りを嗅いだり、花びらに触れたり、春の自然を感じる。）        こどもの日（こいのぼりの歌を歌ったり、こいのぼりの飾りを制作したりする。）</p> <p>2. 夏 七夕（七夕飾りを作り、笹の葉に飾る。七夕の歌を歌ったり、星の絵本を読んだりする。）        夏祭り（夏らしい飾りつけをする。ヨーヨー釣りや金魚すくいなどのゲームを模倣した遊びを取り入れる。水に触れて涼を感じる。）</p> <p>3. 秋 運動会（玉入れやかっこなど、子どもたちの状態に合わせて参加できる競技を選ぶ。音楽に合わせて体を動かしたり、応援グッズを作ったりする。）        ハロウィン（ハロウィンの飾りつけを楽しむ。ハロウィン行事を楽しむ。）        紅葉狩り（赤や黄色に色づいた葉に触れたり、匂いをかいだり、秋の自然を感じる。秋の飾りつけや、落ち葉やどんぐり、つたなどを使った製作をする。）</p> <p>4. 冬 クリスマス（クリスマスツリーやイルミネーションなど、クリスマスの飾りつけをする。みんなでクリスマスソングを歌ったり、楽器演奏をしたりする。）        お正月（お正月飾りを飾ったり、お正月の音楽をかけたり、絵本を読んだりする。書き初めを楽しむ。）        節分（鬼のお面をかぶったり、豆まきをする。鬼の絵本を読んだり、節分の歌を歌う。）</p>		